

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 232

江戸川区立上一色中学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差									
学年	第3学年			学年	第1学年			第2学年					
年度	国語	数学	合計	年度	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
令和12年度の目標				令和12年度の目標									
令和11年度の目標				令和11年度の目標									
令和10年度の目標				令和10年度の目標									
令和9年度の目標				令和9年度の目標									
令和8年度の目標	0	0	0	令和8年度の目標	0	0	0	0	3	1			
令和7年度の結果	-11.0	-15.0	-26.0	令和7年度の結果	-3.3	-2.8	-0.2	-3.6	2.2	0.3			
令和6年度の結果	-9.0	-10.0	-19.0	令和6年度の結果	-5.1	-3.6	-0.4	-9.4	-7.9	-12.9			
令和5年度の結果	-7.0	-10.0	-17.0	令和5年度の結果									

年度 内容	令和7年度 成果と課題		令和8年度	
			目標	目標達成に向けた取組
学校全体	<p>【成果】 CD層が減少傾向である。習熟度別授業等の成果により、学力の底上げができています。</p> <p>【課題】 A層を増やすことで、「教え合い」の授業を活性化し、相乗効果により、全体の学力の向上を目指す。</p>		<p>基礎的な学力の定着は一定の成果を観ることができた。 基礎・基本の確実な定着を継続した目標に設定し、家庭学習習慣の定着を図り、応用・発展問題などにチャレンジする展開を意図的に作り、上記の数値を目指す。</p>	<p>基礎・基本の確実な定着のため、学校全体で家庭学習の方法や定着に向けた取組を統一させ、習熟度や生徒の実態に合わせ、カリキュラムを作成し実践を行う。また、定期的に状態を確認し、アップデートを行い、調整する。</p>
第1学年	<p>【成果】 CD層が減少傾向である。習熟度別授業等の成果により、学力の底上げができています。</p> <p>【課題】 国語では文章の読み取りが課題である。基礎知識の定着不足で、語彙力が低下しており、文の構造を理解できないことに繋がっていると考えられる。 数学では領域を問わず、全体的に知識・技能・思考・判断・表現の両方で課題がある。基礎的な四則計算でも躓くことがあるため、応用問題に苦手意識がある。 英語では、「話すこと」に重点を置いて授業づくりをしてきた結果、読み取る力と書く力の定着が不十分である。</p>		<p>国語では正答率が全国平均を上回るように、語彙を増やすなど、言語能力を高め、文章を理解し、情報を整理できるようにする。 数学では基礎・基本的な内容の定着に重きをおき、計算力を高めることで、関数や図形分野の理解度を高めていく。 英語では、引き続き話すことを重視しつつ、読み取る能力と書く能力を高めていく。下地となる文法力を上げていく。</p>	<p>国語では正答率が全国平均を上回るように、語彙を増やすなど、言語能力を高め、文章を理解し、情報を整理できるようにする。 数学では基礎・基本的な内容の定着に重きをおき、習熟度別で課題を変えて計算力を高めることで、関数や図形分野の理解度を高めていく。 英語では、ALTを効果的に活用して、引き続き話すことを重視しつつ、読み取る能力と書く能力を高めていく。下地となる文法力を上げていく。</p>
第2学年	<p>【成果】 AB層が増加し、CD層が減少傾向である。習熟度別授業等の成果により、基礎基本の定着と学習意欲が高まり、学力の底上げができています。</p> <p>【課題】 国語では文章の読み取りが少しずつできるようになったが、まだまだ大きな課題である。基礎知識の定着不足で、語彙力が低下しており、文の構造を理解できないことに繋がっていると考えられる。 数学では図形に関する内容の理解に課題がある。基礎的な内容の理解や技能は身につけているが、応用問題や複雑な設定の問題に対して設問の理解に課題があると考えられる。 英語では、「話すこと」に重点を置いて授業づくりをしてきた結果、表現力が身に付いてきているが、読み取る力と書く力の定着が不十分である。</p>		<p>国語では正答率が全国平均を上回るように、語彙を増やすなど、言語能力を高め、文章を理解し、情報を整理できるようにする。 数学では基礎・基本的な内容の定着に重きをおき、計算力を高めることで、関数や図形分野の理解度を高めていく。 英語では、引き続き話すことを重視しつつ、読み取る能力と書く能力を高めていく。下地となる文法力を上げていく。</p>	<p>国語では正答率が全国の平均を上回るように、「よむYOMUワークシート」の活動や発展的な内容に触れ、語彙を増やすなど、言語能力を高め、文章を理解し、情報を整理できるようにする。 数学では習熟度によって課題提示や家庭学習の内容を工夫し、基礎・基本的な内容の定着に重きをおき、計算力を高めることで、関数や図形分野の理解度を高めていく。 英語では、ALTとの活動を効果的にし、引き続き話すことを重視しつつ、自らが課題を設定できるようにし、読み取る能力と書く能力を高めていく。下地となる文法力を上げていく。</p>
第3学年	<p>【成果】 CD層が多かったが、減少傾向である。習熟度別授業等の成果により、学力の底上げができています。</p> <p>【課題】 国語では文章の読み取りが課題である。基礎知識の定着不足で、語彙力が低下しており、文の構造を理解できないことに繋がっていると考えられる。 数学では領域を問わず、全体的に知識・技能・思考・判断・表現の両方で課題がある。基礎的な四則計算でも躓くことがあるため、応用問題に苦手意識がある。 英語では、基礎・基本や「話すこと」に重点を置いて授業づくりをしてきた結果、読み取る力と書く力の定着が不十分である。</p>		<p>国語では正答率が全国や都の平均を上回るように、語彙を増やすなど、言語能力を高め、文章を理解し、情報を整理できるようにする。 数学では基礎・基本的な内容の定着に重きをおき、計算力を高めることで、関数や図形分野の理解度を高めていく。 英語では、引き続き話すことを重視しつつ、読み取る能力と書く能力を高めていく。下地となる文法力を上げていく。</p>	<p>国語では正答率が全国や都の平均を上回るように、語彙を増やすなど、言語能力を高め、文章を理解し、情報を整理できるようにする。 数学ではどの分野においても基礎・基本的な内容の定着に重きをおき、各単元の小テスト等により計算力を高めることで、関数や図形分野の理解度を高めていく。 英語では、主体的な活動を増やし、引き続き話すことを重視しつつ、読み取る能力と書く能力を高めていく。下地となる文法力を上げていく。</p>